

ドルの基軸通貨体制は続くのか？

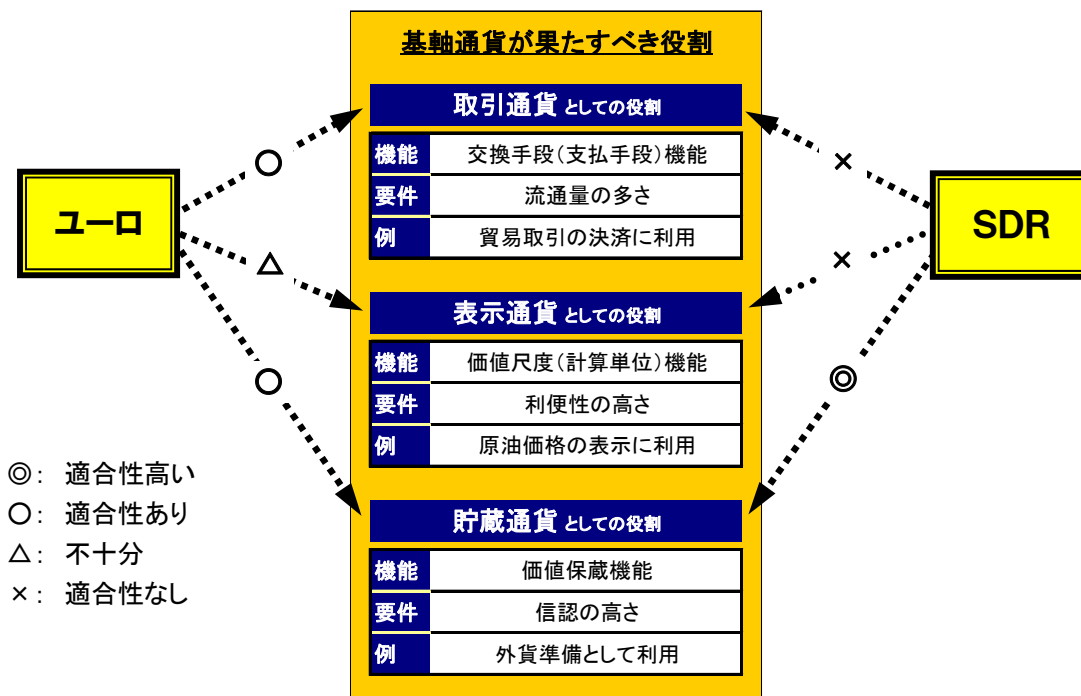
- ✓ ドルに対する信頼低下や基軸通貨としての再評価に関する議論が出始めており、一部の国からは、ドルに代わる基軸通貨として、ユーロやSDRの活用を求める声が挙がっています。
- ✓ しかし、基軸通貨としての適合性から判断する限り、ユーロ・SDRともドル並みの要件を満たしているとは言えないため、当分の間はドルが基軸通貨としての地位を維持する公算が高いと考えられます。

米国経済の停滞およびドル供給の急増を背景に、ドルに対する信頼低下や基軸通貨としての再評価に関する議論が出始めており、一部の国からは、ドルに代わる基軸通貨として、ユーロやSDRの活用を求める声が挙がっています。

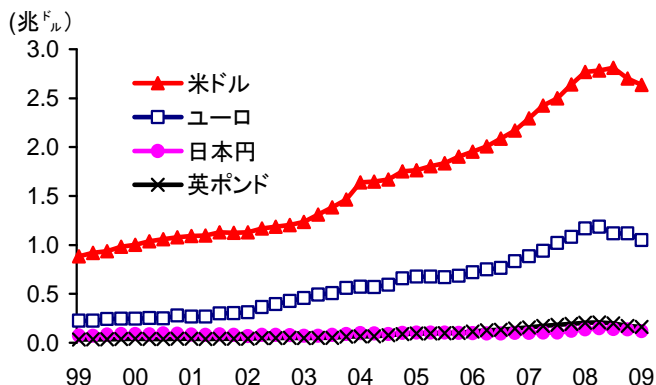
しかし、基軸通貨には、(1)取引通貨としての役割、(2)表示通貨としての役割、(3)貯蔵通貨としての役割、が求められます。図表①のとおり、ユーロは表示通貨としての役割(例:原油価格の表示に利用)が弱く、SDRは貯蔵通貨としての役割(例:外貨準備として利用)は果たしますが、取引通貨としての役割(例:貿易取引の決済に利用)および表示通貨としての役割を果たすことができません。

このように、基軸通貨の適合性から判断する限り、ユーロ・SDRとも現時点でドル並みの要件を満たしているとは言えず、当分の間はドルが唯一、基軸通貨としての地位を維持する公算が高いと考えられます(図表②参照)。

【図表①】基軸通貨の機能・要件と、ユーロ・SDRの適合性判断



【図表②】世界の外貨準備における主要通貨別残高



(参考)

SDR (Special Drawing Rights)とは、加盟国の既存の準備資産を補完するために1969年に国際通貨基金(IMF)が創設した国際準備資産です。IMFのクォータ(出資金)に比例して加盟国に配分されます。SDRの価値は、主要な国際通貨のバスケット(加重平均)に基づいて決められます。バスケットの構成は、世界の貿易及び金融取引における各通貨の相対的重要性を反映させるよう、5年ごとに見直されますが、2006年以降、各構成通貨のウェイトは、ドルが44%、ユーロが34%、円とポンドがそれぞれ11%となっています。

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

